

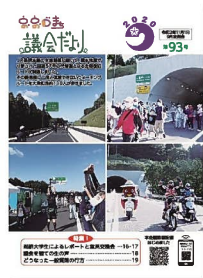


平成29年5月 79号

平成29年8月 80号

平成29年11月 81号

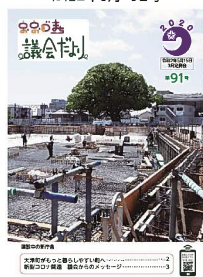
平成30年2月 82号



令和2年11月 93号



令和2年8月 92号



令和2年5月 91号



令和元年2月 90号

# おおづま 議会だより

2021  
第94号  
令和3年1月15日  
12月定例会

## 町民の皆様とともに

特集!

- 大津町議会アンケート調査結果……………3
- 翔陽高校議会傍聴レポート……………10
- 尚綱大学レポート……………11

本会議動画配信  
はじめました



平成31年2月 86号



令和元年8月 88号



平成30年11月 85号



令和元年6月 87号

## 県町村議会広報コンクール入選



菊陽町図書館ホールでおこなわれた研修会

令和2年11月12日熊本県町村議会広報研修会で「入選」の表彰を受けました。残念ながら特選には一步届かず、三連覇は成りませんでした。次回の委員の皆さんにバトンを託したいと思います。全体的な講評として、「徐々にレベルアップしている。情報への住民の目が肥え、地方議会への期待が高まっている。コロナ対応での議会の動きにも特徴が出ている。更なるレベルアップに期待する」というものでした。

研修テーマ「殻を破れ!! 創意、熱意の取り組みに学ぶ」では県内の4議会が登壇されポイントを紹介され各自自治体のエネルギーを実感しました。

### おおづま議会だより 94号

編集：(委員長) 豊瀬 和久 / (副委員長) 金田 英樹  
(委員) 山本 富二夫 / 山部 良二 / 三宮 美香  
発行責任者：(議長) 桐原 則雄



### 編集に関わっていただいた多くの皆さまに感謝

子育て中のお母さんや若い人たちに読んでいただきたいと、町PTA、大津高校生、町広報担当者、尚綱大学生との意見交換会をさせていただきました。

そこで出た感想や意見、そして町民の皆さまからの大切なお声を参考に作り上げてきた結果、熊本県町村議会広報コンクールにおいて2期連続して特選、入選を受賞させていただきました。

今期の発行は今号が最後となりますが、編集に関わっていただいた多くの皆さまに感謝の思いです。

4年間、ありがとうございました。

議会広報編集特別委員会



この議会だよりには、  
「おおづま 議会だより」  
のロゴマークを  
活用しています。

この議会だよりには、  
「おおづま 議会だより」  
のロゴマークを  
活用しています。

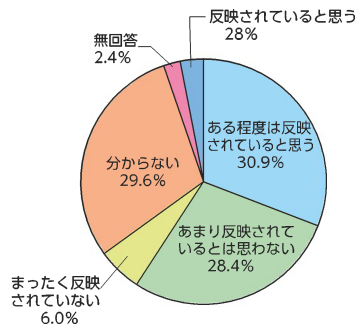
令和3年1月15日 第94号 発行/熊本県菊池郡大津町議会 編集/議会広報編集特別委員会 印刷/創文印刷  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大津1233 ☎ (096) 293-8989

# 議会への意識調査アンケート

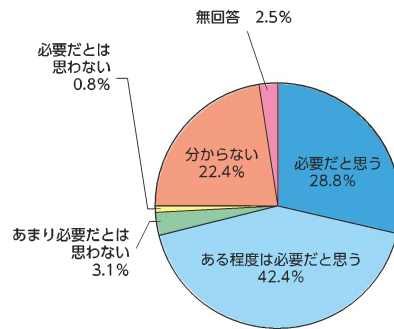
7月から8月にかけて実施した議会への意識調査結果

送付対象数 3,000人  
回答数 1,051人  
回答率 35.0%

①あなたの意見や町民の声が、町議会を通してまちづくりに反映されていると思いますか。



②町議会は、改善や合理化などへの取り組みが必要だと思いますか。



③全国的には地方議員への成り手不足が、地方自治の課題となってきました。その理由は何が原因だと思いますか。

複数回答

| 件数   | 比率    | 選択肢                                   | グラフ   |
|------|-------|---------------------------------------|-------|
| 404  | 38.4% | 1. 議会の活動が分からない                        | 38.4% |
| 320  | 30.4% | 2. 議会に期待していない                         | 30.4% |
| 183  | 17.4% | 3. 行政のすることに興味が無い                      | 17.4% |
| 158  | 15.0% | 4. 議員の定数が多い（現定数：16人）                  | 15.0% |
| 144  | 13.7% | 5. 議員報酬が安い（現在 24万9千円）                 | 13.7% |
| 166  | 15.8% | 6. 選挙ごとに失職することが不安                     | 15.8% |
| 549  | 52.2% | 7. 若者が政治に関心をもたなくなった                   | 52.2% |
| 176  | 16.7% | 8. 学校で政治への学習が不足している                   | 16.7% |
| 216  | 20.6% | 9. 議員になると忙しい（地域行事への参加が増えたりして仕事と両立が無理） | 20.6% |
| 43   | 4.1%  | 10. その他                               | 4.1%  |
| 55   | 5.2%  | 無回答                                   | 5.2%  |
| 2414 | —     | 計                                     |       |

若者の政治参加が町と議会を活性化させる。

## 活発な審議ののち全議案を全員賛成で可決

### 子どもたちの笑顔のために

12月定例会を12月4日から11日までの8日間の会期で開きました。

一般会計補正予算をはじめ、新庁舎で使用する備品購入費などの追加議案4件を含む、15議案と地方たばこ税を活用した分煙環境整備に関する請願1件を全員賛成で可決、教育長に吉良智恵美さんの再任を同意し閉会しました。

一般質問には、6人が登壇しました。（P6からP9に質問内容を掲載しています）

## 町民の皆様とともに

令和3年の新春を迎え、議会を代表して謹んでごあいさつ申し上げます。

町民の皆様をはじめ各方面におかれましては、平素から町議会に対しまして温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、平成29年3月から、新たな議会構成でスタートをさせていただき、この4年間、議員全員が夢と希望がかなう元気な大津町づくりを目指し、様々な取り組みをさせていただきました。

まず、平成28年4月に発生した熊本地震に対する取り組みを町と一体となって、早急な復旧、復興をめざし、事業の推進や予算審議を通して、被災されました町民の皆様をはじめ多くの関係者の方々への様々な支援策を進めてまいりました。

また、役場庁舎も被災し、まちづくりや災害対応の拠点機能が発揮できず、町民の皆様に変惑をおかけいたしました。その間、議会も新庁舎建設特別委員会を設置し、約29回を超える会議を開催し、町に対して新庁舎建設に関する総括報告書を提出させていただきました。

本年5月には、新たなまちづくりの拠点となる安心安全な新庁舎が完成しますと、町民の皆様にも大いに利用され、喜んでいただくものと思います。

町議会としては、町民の皆様意見を反映することが重要と考え、休日議会の開催や各種団体との意見交換会、議会に関するアンケート調査、災害時における議会対応計画、新庁舎における議会ICT推進基本計画の策定をはじめ、ホームページへの議会や委員会活動状況などの情報掲載、中高校生の夢議会の支援などの取り組みも行いました。

次に、議会の活動をお知らせする「おおづま議会だより」もリニューアルし、熊本市町村議会広報コンクールでは特選、また、全国でも賞をいただき、大きな喜びとともに、町民の皆様にご愛読いただき感謝しているところであります。

更には、新型コロナウイルス感染症対策に対する財源や取り組みを早急に実施するように国に対して意見書を提出するなど、議会議員全員が丸となって議会活動を進めてきたところです。

最後に、町民の皆様と町及び議会が一体となり、更なる飛躍を目指し、議員一同全力で希望あふれるまちづくりに取り組んできましたことをご報告し、感謝とお礼を申し上げます。



議長 桐原 則雄

大津町議会

## 経済建設委員会 レポート



## 宿泊客の誘致状況は

### 宿泊数を増やす ための取り組み

◎町の財源にも限界があるため、例えば補助率を下げて、その分適用される宿泊数を増やすなどの協議はしているか。

▲現行の6割引きというインパクトが他の自治体の同様の事業と比較しても、宿泊客を誘致するのに大きな刺激になっているため、この率は維持したいと考えている。

町内の経済を回すためにも、きちんと満額お金を使ってもらう手立てを

### 被災住宅修理支援 を至急に

※国の施策に合わせて  
休止中です。

◎熊本地震関係費の、これまで支援が受けられなかった方に対して、どのような調査を行うのか。

▲制度を利用することが出来たにもかかわらず、何らかの理由で受けられなかった方々がおられる。

その理由は、修理代を既に業者に支払っていたなどだ。

### 意見

支援を受けられるのに、受けられなかったという方が出ないよう、に支援システムの構築を行ってほしい。

## 文教厚生委員会 レポート



小学校のプール

## コロナの影響 子どもの体力・ごみ増量

### 夏休み水泳教室 委託について

◎夏休みの水泳教室が、昨年度は猛暑で今年度はコロナウィルスの影響により開催できていないようだが、全体的に検討する必要があるのではないか。

▲水泳教室は児童の体力をつける意味でも必要だと考えている。委託先とも打ち合わせて進める。日中の暑い時期は避け、夕方などの実施を検討している。

◎プールがある民間施設なども検討してみてもどうか。

▲検討する必要があると思う。

## 総務委員会 レポート

## か コロナ禍に打ち勝つ政策を



補助対象商品

### コロナ感染症 拡大を受けて

◎感染症対策のための行政区への補助金は緊急的な措置として定額支給は考えられないか。

▲今回のコロナ対策費の10万円の補助については、100%補助の感染症対策費として地域の要望（マスクやアルコール消毒液など）を調査し申請はスピード重視で積極的に区長に働きかける。

### ふるさと納税に ついて



人気の大津特産からいも

### ◎ふるさと納税の 状況は

▲今回約9千万円の寄附を見込み12月補正に上程させていただいた。11月の後半から寄附件数がさらに増加し、11月末時点で2億8千万円の寄附申し込みがあり、今後改めて予算の編成をお願いする。

継続的に支援が必要であれば新年度予算でも対応を検討する。

### 生ごみ処理機

|                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 電動式生ごみ処理機               | 購入金額の3分の2<br>(上限4万円まで)  |
| 生ごみ処理容器<br>(コンポスト)      | 購入金額の2分の1<br>(上限3千円まで)  |
| 生ごみ処理容器<br>(ダンボールコンポスト) | 購入金額の2分の1<br>(上限500円まで) |

補助金額

◎生ごみ処理機の購入が増えている要因は、

▲家庭ごみの量が例年より増えている。外出自粛による「単」も消費や不用品を処分する「断捨離」があるのではない

か。電動生ごみ処理機の購入が、新型コロナと関係があるかは不明。

◎ゴミ分別アプリの導入はいつからか。

▲来年1月から利用できると予定。

## Q 子育て支援日本一のまちづくりを目指すべき!

### A 子育て支援策の取り組みを検証し充実を推進する

山部 良二議員



子ども医療費負担減

Q 国交省政策研究所の調査で2040年には1800の自治体のうち、896が消滅の恐れがあるという衝撃的なデータが出ている。これから人口減少やコロナ禍の地方経済の悪化を克服するためには、子ども医療費無償化など子育て支援に特化することが重要で、子育て支援に投資を行えば、人口の増加・賑わい創出・財源が生まれ、子育て支援以外の政策にもつながると思うがどうか。

A 子育て支援に特化し、それが人口増加につながり財源確保により好循環を見出している自治体もある。人口増を受け入れるための土地利用、インフラ整備、財政計画等、まちづくりの観点からも中長期的に考えていく必要がある。

(教育部長)

#### その他の質問

・地域公共交通網形成計画について

## Q 今 後継者がいない農家をどうする

### A 担い手の育成を図ることが一番重要だ

農業者数等(農林業センサスデータ) 令和2年10月現在

| 年度      | ①総農家数(2+3)   | ②自給的農家   |
|---------|--------------|----------|
| イ. 2015 | 652          | 192      |
| ロ. 2020 | 599          | 169      |
| 増減(イーロ) | ▲53          | ▲23      |
| 年度      | ③販売農家(4+5+6) | ④専業農家    |
| イ. 2015 | 460          | 242      |
| ロ. 2020 | 430          | 228      |
| 増減(イーロ) | ▲30          | ▲14      |
| 年度      | ⑤第1種兼業農家     | ⑥第2種兼業農家 |
| イ. 2015 | 55           | 163      |
| ロ. 2020 | 52           | 150      |
| 増減(イーロ) | ▲3           | ▲13      |

2020年は速報値の為、変更になる可能性があります。

#### その他の質問

・テレワークの為の受け入れ態勢整備を

山本 富二夫議員



新規就農者担い手の不足対策は

Q 特に後継者がいない農家の跡取りを今から真剣に考える時期にきている。

A 後継者のいない農家と町は独自の視点で考え、農家協力隊の創設をし、担い手問題の対策を講じる時期ではないか。

A 町は、規模拡大し、効率的な農業をするために基盤整備や農地集積などを推進するとともに、担い手の育成を図ることが一番重要だと考えている。

(町長)

Q 農家協力隊の創設については、後継者の確保につなげられるかなど、今後、調査・研究をしていく。

A 優良農地を維持するために、認定農業者や農地中間管理機構を中心に担い手への集積を図っているが、新規就農者・担い手の確保までには至っていない。

今後、農業委員会としてどのような支援、活動ができるか協議していく。(農業委員会局長)

# 一般質問 12月定例会 町政を問う 6議員が質問に登壇!

1. 豊瀬 和久議員
2. 山部 良二議員
3. 山本富二夫議員
4. 荒木 俊彦議員
5. 佐藤 真二議員
6. 永田 和彦議員



大津町のさまざまな課題等について、議員が町に考えを問うのが一般質問です。議員は政策提言も含めて、質問することができます。ここでは、質問した議員ごとに項目を要約してお知らせいたします。また、一般質問の記事に関しましては、会議録の内容に基づき作成したものを掲載しています。

## Q 離乳食を避難所で提供できるよう備蓄が重要

### A 液体ミルク同様に子育て検診センターに備蓄する

豊瀬 和久議員



アレルギーに配慮した離乳食

Q 熊本地震の時に避難所で、1歳前後の子どもの食べ物の確保が困難な状況があったことを教訓として、町内企業が非常食にもなる離乳食を開発された。

A 米粉を原料としておりグルテンフリーでアレルギーにも配慮した安全・安心な離乳食である。

このような非常用の離乳食を災害時などに避難所で提供できるよう備蓄しておくことが重要ではないか。

平常時においては液体ミルクと同様に乳幼児検診などで防災意識の向上を含めた活用をしながら確保と入れ替えを行っていく。(総務部長)

Q 液体ミルク同様に災害時の食料として子育て検診センターに常備するとともに、子育て世代の防災意識の向上にも繋げていきたい。

A いつ起こるかかわからない災害の備えとして乳幼児用の離乳食を備蓄する必要がある。

#### その他の質問

- ・コロナ禍における子ども医療費助成
- ・行政手続きにおける押印廃止と書面の簡素化
- ・暗視支援眼鏡の日常生活用具への追加

## Q デジタルデバイドと情報難民

### A 高齢者、障がい者や社会的弱者のための対策が必要である

永田 和彦議員



Q いろんな所でデジタル化が進み便利になったと全ての人が感じるだろうか。

情報技術（IT）を使いこなせる者と使いこなせない者との間に生じる機会の格差、個人間の格差が生じているのも事実である。

この困難を認識し町政を進めなければ住みよい町にはならない。

豊かな街とは若いも若きも情報を共有し、困っている方がいれば手を差し伸べることが当たり前にできる地域である。

Q 未来社会の姿として提唱される「Society 5.0」は、IoTですべての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までの新しい新たな価値を生み出すことで課題や困難を克服すると提唱されているところである。

2030年を年限とする国際目標SDGsでは、「誰一人取り残さない」「持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」を目標にしており、高齢者、障がい者や社会的弱者になりがちな人々を対象として一体的に取り組む機運が高まっていて、そのための対策は必要である。

（町長）

#### その他の質問

・一歩先行く自治体とは

## 経済建設委員会 意見交換会

## 町認定農業者協議会との 意見交換会(11月27日)



意見交換会の様子

Q 大津町の農業の状況や要望などについての意見交換会

農家戸数は半減し、経営耕地面積は一割減の中、もっと増やしたいと思うが、人がいないし、機械も高額になつて難しい、補助金などの支援があれば頑張れる。

（認定農家）

国、県の補助を活用出来るよう引き続き取り組みを行う。

出席者  
認定農家 6名  
経済建設委員 5名  
議長 5名  
町執行部 5名

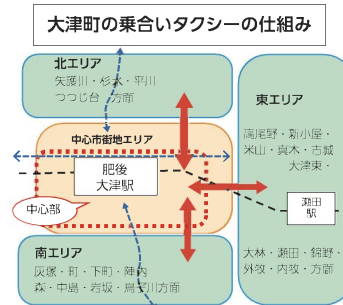
Q からいもの基腐病を危惧している。町で対策本部を立ち上げてもらいたい。

A からいも生産者に対し、消毒が大切と説明会を行うとともに対策費を次の補正予算で計上する予定。

## Q 乗合タクシーの充実とセントラル病院への直通改善を

### A 来年2月にも直接乗り入れ実現したい

荒木 俊彦議員



| 乗合タクシー2019年度実績 | 町補助       | 960万円       |
|----------------|-----------|-------------|
| 利用人数           | 10,139人   | 利用者負担 291万円 |
| 料金片道           | 150円～500円 | 往復4便        |

先道地事例 宮城県 東松島市 30分ごとに予約16便  
大人300円 小学生100円 免許返納者 100円  
坂木県 壬生町 町内300円 三重県 玉城町 バス停方式 無料  
県内 荒尾市 市内全線 300円～700円 A活用予約

#### その他の質問

・新型コロナ関連による失業者への相談体制。  
・町営住宅の町の都合による引越への支援は。

Q 乗合いタクシーが導入され、町の北部・東部・南部から町中心部への往復に大切な交通手段となっているが、町民の方からの要望に応じて更なる充実を求める。

①現在の周辺部エリアからの中心部への往復の予約便数を増やすこと。

②セントラル病院が菊陽町に移転して、病院への直接乗り入れの改善が急がれる。

③中心市街地では公共交通が不便であり、中心部にも乗り合いタクシーが必要ではないか。

①タクシーの町中心部へは朝の7時30分から午前中4便、午後11時4便で運行している。増便や運行時間帯の変更については、利用者の要望や乗合の状況等を調査しながら改善を進める。

②セントラル病院への直接乗り入れは運輸支局への手続きを経て、来年2月には実現したい。

③中心エリア内での買い物や通院などの移動手段は課題であり、タクシーがいろいろか、巡回バスがいいのか、高齢者の外出支援のために議論を深めたい。

## Q 営利企業への土地売却は不適切

### A 町民にとっての利益と判断した

佐藤 真二議員



営利企業とは違う！  
社会福祉法人にとっての「土地」

社会福祉事業を行う施設の土地

「自己保有」が原則（一部例外あり）  
事業存続の基礎として「基本財産」と位置付け

そのため

- 売却等には  
→所轄庁の同意、定款変更等が必要
- 売却益は社会福祉事業に活用
- 清算時には  
→他の社会福祉法人や国に保有させる

Q 先般の土地売却について。

売却額が低廉だということ、社会福祉法人に對するものだったと前向きにとらえることはできる。しかし、最後になって売却先が法人の親族経営という商事会社になったことについての説明には根拠がない。

社会福祉法人にとっての土地という財産の意味は、営利企業のそれとはまったく異なる。

以前「売買ができれば、社会福祉事業の運営に支障をきたす」との

（答弁の要）

最終的には庁議で決めた。町民にとってどうなのかという視点で判断した。（総務部長）

Q 非営利の法人向けの売却が営利にすり替わったのは売却にいたるプロセスに町の瑕疵があったからだ。町民にとっての利益とは言えないと指摘する。（答弁は求めず）

答弁があつたが、真意は何か。判断の根拠は。

A 「土地の売却ができない」となると、いわゆる経営の安定という視点から見ても、土地の売却ができないには、そういった観点から福祉事業を進めて行く上で、運営に支障をきたすことになるということ、お答えを私のほうでしたところ。」

つまり 将来にわたって公益のために利用される仕組みになっている

## 翔陽高校生 議会傍聴しました！

12月9日(水) 大津町議会(一般質問2日目)の様子を翔陽高校3年生13名(政治経済受講者)が傍聴させていただきました。

傍聴させていただいた生徒のレポートの中からいくつかをご紹介します。

### 『自分にも関わる』という意識



瀬上 透季  
せのうえ みずき

私は、大津町に住んでいますが、正直なところ今まで議会に興味を持たず関わろうとしていませんでした。ですが、今回傍聴してみて、大津町をよりよくするために、多くの方が議会に参加されていることがわかりました。また、議会を傍聴することだけが議会に関わるのではなく、毎回発行されている『議会だより』に目を通すことも議会に関わることではないかと思います。これから、主権者となる上で、「自分にも関わる」ことだという意識を持ち、自ら発信したり、意見を述べたりしていきたいと思っています。

### コロナ禍だからこそ

上野 七  
うえの なな



コロナ禍だからといくつもの案がだされていて、単純に「すごい!」と感じました。テレワークに対応した設備や公共交通の充実を目指した話し合いの場で、今の日本の状況の中では、必要で大切なことだと思うので、これらの話し合いの重要性を改めて感じました。また、居住してくる人に対する対応は適切かなどのことも考えることで町の人々が安心して信頼してもらえる町になっているんだろうと思いました。



川辺 流嘉  
かわべ りゅうか

### これからの自分にできること



古庄 恵慎  
ふるしょう けいしん

これまで高校に通いながら、大津町の「もっとこうなれば!」ということはありませんでしたが、それをどう解決していけばいいかわかりませんでした。議会を傍聴したことで、まず「何が問題なのか」、「どうしたら改善できるのか」、「これから何をすればいいのか」など一つ一つ具体的に歩いていくことが大切なんだと改めて思いました。また大津町の課題に対しても、自分たちにできることを見つけ、行動したり、発信していきたいと思っています。



岡本 拓海  
おかもと たくみ

### 大津町に関わる一員として

今回傍聴をさせていただき、多くの大人が町のために話し合いをしており、自分たちがいつも行う話し合いの規模とは全然違うなと思いました。また町の予算などを考えながら、よりよい町づくりを考えられている議員の方々の活動や志に感銘を受けました。通学も就職先も大津町なので、もう少し大津町について考えていきたいと思いました。また、18歳になり、選挙で投票する責任を感じるきっかけにもなりました。

### 若者の視点

## 尚綱大学生によるレポート 22

### オンラインでの議会傍聴の感想

### 地域の課題を深く考えるきっかけになった

現代文化学部 2年 佐藤 朋代

私が、今回の議会傍聴で最も印象に残った質問は、「新規就農者(担い手)の不足対策」です。単に大津町に国の計画を取り入れても、新規就農者の確保を考えると難しいということだった。

現在、他県では、新型コロナウイルスの影響で、外国人労働者が来られず、農業関係者が不足しているようです。今回の議題は、大津町だけでなく、日本各地の問題でもあると思いました。今回、改めて、農業の後継者不足の実態を学ぶことができたと思います。

議題の回答では、5年前に比べ、耕作放棄地を7ヘクタール減らすことができたといいますが、今は耕作放棄地を減らしても、後継者がいなければ、いずれは放棄地の増加につながってしまいます。そのためには、今後の10年間で、その土地に根付いている方法、例えば、土の性質に合わせた育て方など、農業の中の文化も継承していかなければならないのではないかと思います。



### 議員が必死に取り組んでいた

現代文化学部 2年 上田 真綾

今回初めて議会を傍聴しました。印象に残ったことは、思っていた以上に、住民の生の声を反映して、町を良くしようという真剣に質問し、答えていたことです。特に、世相を反映して傍聴した質問のなかにも、コロナ関連の住民の声を訴えたものが多かったです。

そのなかでも、「コロナ禍における子ども医療費助成対象年齢引き上げ」の質問が印象に残りました。コロナ禍で、保護者の収入が減り、大人よりも病気やけがをしやすいくちも医療費が負担になっているというのは切実な問題で、可能ならばより多くの子どもを対象にすることが必要だと思います。また、一人親や、非課税世帯ではない人達にも、支援を広げるべきだという意見も出て、コロナ禍で収入が減った人々のことを、必死に考えてくれたのだということを知りました。

議員という仕事は、なかなか実態がイメージしにくく、あまり良いイメージを持ちにくい。私は大津町の住民ではないが、自分の住んでいる地域の市町村議員の方々に、感謝するべきだと思った。そして、これからは、自分の住んでいる地域のニュースや取り組みにも少しずつでも関心を持ちたいと思いました。

